

- 第4回子ども・子育て支援会議 審議事項：日野市子ども条例委員会の在り方について グループ討議
- ・子どもの権利（の主張）を「わがまま」「甘え」と思うのはどんな時か？
 - ・子どもの権利が認められていないと思う事例など

カテゴリ	サブカテゴリ	意見等	
子どもの権利条約について		<ul style="list-style-type: none"> ・権利条約はすばらしい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決していくためのもの、これが権利条約であると認識した。 	
子どもの権利	子どもは保護の対象・権利の主体	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは守り守られる存在であることから、子どもを「保護の対象」と考えることはできる。一方で、「権利の主体」であると捉える認識があまりなかった。先ず、ひとり人間として人権があり、且つ子どもだからこそ故に、不完全・未熟であり成長する過程を大人がサポート（保護）することが必要と感じた。 	
	子どもの成長（育つ権利）	<ul style="list-style-type: none"> ・電車やスーパーなどで大きな声で泣いてる子どもは、わがままだと思われることがある。親も周りからの冷たい視線が気になり、子どもに寄り添うことが難しい。しかしながら、未熟さ故に泣いたり喚いたりケンカしたりすることは、子どもなりの主張であり、そのような経験をしていく中で、自分で感情をコントロールできるようになる。大人になるための大切な過程であり、成長する力が子どもには備わっていると思う。 	
	大人の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいおさんは「子どもの権利」を自分で行使することはできない。そうすると子どもが権利を行使できるよう、大人が襟を正し行動しなければならない。 	
	権利とわがまま …線引きの難しさ		<ul style="list-style-type: none"> ・講義を受け、客観的に子どもの権利を学ぶことができた。しかし、家庭に戻ると自分の子どものわがままに対し、将来のことを考え、つい強く言ってしまう。「わがまま」させることと「しつけ」の線引きが難しい。
			<ul style="list-style-type: none"> ・欲求や要求をどうとらえるのかで、わがままととらえられてしまう。
		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭において、権利侵害となるラインがどこにあるのかが難しい。 ・例えば、子どもが任天堂スイッチを持つ権利はあるのか？ 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・権利かわがままか、ものさしがあって一律に判断できるものではない。子どもの意見表明とは、子どもの望みが全て実現されるかどうかではなく、大人が子どもの望みを聴くこと、受け止めること。 ・例えば、子どもが任天堂スイッチを欲しいと望むなら、その望みを親が聴いてあげることが大事。実際に持たせるかどうかはそれぞれの事情と判断である。 	

- 第4回子ども・子育て支援会議 審議事項：日野市子ども条例委員会の在り方について グループ討議
- ・子どもの権利（の主張）を「わがまま」「甘え」と思うのはどんな時か？
 - ・子どもの権利が認められていないと思う事例など

カテゴリ	サブカテゴリ	意見等
子どもにとっての最善の利益	判断の難しさ	・それぞれの置かれている状況で、最善の利益を判断するのは難しいが、意識を変えていくきっかけにはなった。
		・「真の幸福」の実現がむずかしいと感じる。
		・子どものために、子どもの将来のために、厳しく接することもある。果たしてどこまで「最善の利益」となっているのか。
	親の期待と子どもの思い	・幼稚園のお受験など、本当に子どもが望んでいることなのか、親のわがままなのか。考え方が人それぞれで違う。
		・子育てには反省しかない。子に勉強するよう言ったり、塾に行かせたりすることは子への教育なのか？それとも権利なのか？
		・親は自分の子どもにこう育てほしいと思う。子どもの思いとは別に、親が他の子どもと比較したり、競争させたりさせていることに気づく。
・子どもへの過度な期待や思いから効率性や成功を求め過ぎている。結果、子育てに対する世間の「真っ当なルート」が狭すぎて自由がない。もっと多様性が認められ、ある程度ルートを外れても良い雰囲気になってほしい。		
貧困の影響	・貧困の家庭では、主張することもできない。平等ではない。	
	・親ガチャという言葉がある。子どもは現状を選べずに生まれてくる。それぞれの立場で思い、考え方が違うのではないかと。富裕層に生まれてきた子どもと貧困層に生まれてきた子どもで、「子どもの最善の利益」の実現の到達点が一緒とは思えない。現実には厳しいかなと思う。幸せと感じる場面が置かれている立場で異なってしまう。人それぞれで違うことが良いのか悪いのかはわからない。	
保護者として	第一義的責任、の重圧	・子どもの権利を保障する「第一義的責任は親」である、という言葉が重かった。親である自分が子どもの権利を奪っているのではないかと、とつらくなった。子どもが望むことを、親の事情で叶えてあげられていないことがある。
	全責任、ではない	・親だけが子どもに関わるわけではない。地域の活動なども子どもを支えている。

■第4回子ども・子育て支援会議 審議事項：日野市子ども条例委員会の在り方について グループ討議

- ・子どもの権利（の主張）を「わがまま」「甘え」と思うのはどんな時か？
- ・子どもの権利が認められていないと思う事例など

カテゴリ	サブカテゴリ	意見等
知ってもらう・理解してもらうために	伝え方に工夫が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの権利」、「子ども条例」について、伝える方法が難しいと感じる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの権利」について、保育士取得の学校に行っている人は勉強しているはずであるが、わかりにくい概念で、意識にのぼらない、よくわからない。 ・実際、保育の現場では子どもの権利が保障されていないような気がする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・権利を主張するのはわがままだ、という意見もあるようだが、決してわがままではない。必要性を正しく理解し、知っている人にはさらに広範囲に、知らない人には正しく理解してもらう必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校でぜひ出前授業を子どもたちにやってほしい。これにはわかりやすい教材が必要。紙芝居などをぜひ作ってほしい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待防止の出張授業が行われているが、児童生徒だけではなく、親も聴きたいという意見があった。日常的に権利侵害を受けている子どもはそれが当たり前だと思ってしまうというが、親も当たり前のしつけのつもりでやっっていることがあるのではないかと。
	知っている人を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・学童の集まりの際に、子ども条例について聞いてみたが知っている人がいなかった。自分の子どもの学校のPTAにも周知させてもらった。
	知る・考える機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は子どもの権利について、講義や議論ができて本当にうれしい。このような機会が大切である。